

まち研委員会

市長と語る会

宮澤 恵子

10月24日(木)澤田和延江南市長と本会の14名の理事が懇談する機会をいただきました。

今回のテーマは「江南市女性連絡協議会の未来について」。江南市の男女共同参画の課題として「審議会などへの女性委員の登用比率が近隣市町と比べて低い」ことが挙げられます。市長は、審議会の女性委員を増やすため、積極的に人材を発掘していく姿勢を示されました。



私たちも目標達成のために行政と協力していきaito思いました。

また、会員の獲得、イベントの予算、セミナーの開催など、本会が活動していくにあたっての要望についても伝えることができました。行政と市民がともに協力し、よりよい地域づくりを目指す対話の場となりました。

また今年度、連絡会のメンバーの河井仙子さんと栗本明美さんが「男女共同参画推進活動者」として愛知県知事より表彰され、この席で愛知県の県民文化局男女共同参画推進課の課長補佐太田美代子氏から賞状を授与されました。(左写真)



「Happy ファミリーフェスタ 2025」を終えて

小森 洋子

今年の「Happy ファミリーフェスタ」は、昨年までの「男女共同参画市民フェスタ」というタイトルを一新して、若い年齢層にもフィットするものを皆で考えました。

ちょうど今年は3月8日「国際女性デー」の開催となり、活躍している女性にスポットを当てた企画をそろえました。メインイベントはファミリーアンサンブル「おとのは」のファミリーコンサートを採用しました。子育てで一度吹奏楽から離れたママたちが「もう一度ブラスバンドをやりたい!」という思いで結成した楽団による、とても楽しい演奏でした。

美術工芸室では、スターバックスコーヒーの女性店長の皆さんによる「国際女性デー」だけの特別なコーヒーを使った講座や、御菓子司「梅のや」の女性講師による和菓子づくり講座などを実施しました。

また昨年より取り組んできた「ジェンダー川柳」の募集企画に全国から425句の応募があり、大ホールホワイエに展示、セレモニーの中で優秀句の表彰式を行いました。記念品として作成した、川柳クリアファイルも贈呈しました。さらに和室では、昨年の応募句をもとに、「ジェンダーかるた江南版」を作り、それを使って「ジェンダーフリーかるた大会」を開催しました。参加者からは「楽しかった」「固定観念について考えるきっかけになった」「性別を超えて活躍できる社会の大切さを実感した」といった感想が寄せられました。

折りしも今年度は江南市制70周年の年にあたり、大ホールを含め、Home&nicoホール全館での開催となりました。若い世代から要望のあったキッチンカーを呼ぶこともでき、大ホールでは体操協会の子もたちの発表も披露できました。

またその他、展示室では委員会活動の報告や、参加団体の活動紹介に加え市内の「あいち女性輝きカンパニー」の紹介と「健康チェックコーナー」、第1会議室では近隣で活躍する団体や事業者さんによる「子どもお仕事体験」、第2会議室では女性目線での防災を考えるコーナーを企画しました。そして午後は、参加団体のステージ発表や、お楽しみ抽選会。一日を通してのスタンプラリーなども大好評でした。同時開催の「SDGsシンポジウム」や「こうなんパンまつり」の相乗効果もあり、これまでになく3000人を超える皆さんに楽しんでいただけました。

地元の中高生ボランティアの皆さんの力も借り、半年間の準備を経て、皆さんに楽しく男女共同参画に触れ、学んでいただく機会を創出できたのではないのでしょうか。嬉しい励ましの言葉もたくさんいただきました。

来年はどんなHappyファミリーフェスタにするか皆で知恵を絞り、協力し合って、またすてきなフェスタが開催できるように頑張りましょう。



「おとのは」ファミリーコンサート



ステージ発表大ホール



ステージ発表小ホール



お仕事体験コーナー



展示室の様子



ジェンダー川柳表彰式



ジェンダーフリーかるた会



防災コーナー



コーヒー講座



和菓子作り講座



ボランティアの皆さん



発行

江南市女性
連絡協議会
第72号

2025年4月発行

まち研セミナー『若い人が住みたくなる街』～江南市のこれからを考える～

高田 朝子

令和7年1月23日(木)江南市中央コミュニティセンターの会議室において、奥村悠二氏(元愛知県議会議員)土井紫氏(江南市議会議員)をお招きして、まち研セミナー『若い人が住みたくなる街』を36名の参加を得て開催しました。

より良い江南市を目指すにはどんな課題があり、どのような解決方法があるかなどをお二人から提案していただきました。

土井氏のメッセージ



江南市の課題:このままいけば2055年に**人口7万人を切る**ことが予想されます。税収が減り、行政サービスが低下します。地域公共交通が撤退し、空き家や空き店舗・耕作放棄地が増えます。

江南市は将来像として「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市～生活・産業・文化の魅力があふれ、選ばれ続けるまち～」を掲げています。そのためにはまず、**人口を守ることが必要**です。選ばれるためには女性が子育てや仕事をしやすいことがカギとなります。**女性が暮らしやすいまちの構築を考えましょう!**

奥村氏のメッセージ



小川未明の童話「赤い蠟燭と人魚」をもとに、話を進められました。
身重の人魚が、我が子には夢に見たように明るく優しい人間のまちで暮らしてほしいと、神社に赤ん坊を授けます。けれども優しかった養い親の老夫婦もいつしか欲望にかられ、ついにはまちも滅んでしまいます。最後は我々に人間の愚かさや自然への畏敬を再認識させる物語です。
「まち」は人がつくるので、一人ひとりが真剣に考えなければなりません。やりっぱなしの行政、頼りっぱなしの民業、無関心な市民、この状態では「まち」はうまく機能しません。
江南市は、名古屋圏のベッドタウンとしての魅力や、ふるさと納税の制度などを活かし、産業振興やより良いまちづくりを行うとよいと思います。

お知らせ

☆オゼキ制服様より創業100周年記念に際し、本会に10万円をご寄付いただきました。ここに披露させていただきますとともに、心より感謝申し上げます。

☆「日本女性会議 2025 榎原」のお知らせ 日時:10月3日(金)～5日(日) 会場:奈良県榎原文化会館ほか
テーマ:「日本国始まりの地から未来へ～多様性を認め合う社会の実現を～」 ふるってご参加ください。

☆「藤まつりハッピーバザール」開催
4月26日(土)、27日(日):曼陀羅時境内にて開催。皆さんお誘い合わせてぜひお越しください!

